

(9) 中国



中国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

前回からの主要変更点

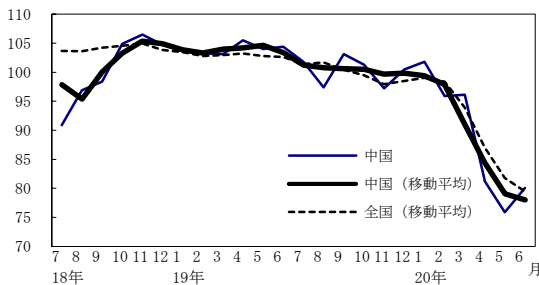
	前回 (令和2年5月)	今回 (令和2年9月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	一部に持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。

4-6月期には、輸送機械は、普通乗用車等が減少した。汎用・生産用・業務用機械は、圧縮機等が増加した。化学は、ポリエチレン等が増加した。電子部品・デバイス、モス型IC(メモリ)等が増加した。食料品・たばこは、減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	23.2	▲1.9	▲59.6	▲60.7	▲5.3	48.6
汎用・生産用・業務用機械	13.3	▲12.0	0.9	7.9	▲10.0	0.1
化学	12.2	▲4.3	2.7	4.0	▲8.3	6.8
電子部品・デバイス	8.8	6.2	0.7	▲0.2	▲3.3	0.8
食料品・たばこ	6.8	▲2.0	▲7.6	▲8.7	▲0.7	3.7
鉱工業	100.0	▲1.8	▲19.2	▲15.5	▲6.5	5.5

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。  
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4-6月期、6月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

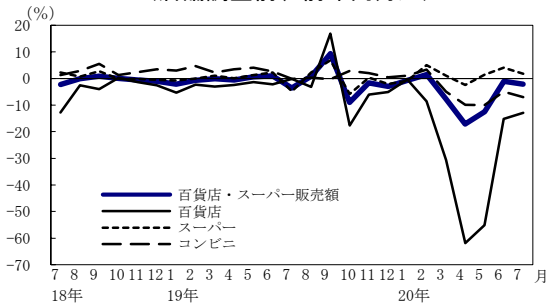
4月は前月比6.7%減、5月は同0.1%減、6月は同5.8%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4、5月は、緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、衣料品や飲食料品等が減少したことにより、前年を下回った。6月は、衣料品や飲食料品等が減少し、前年を下回ったが、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、減少幅は縮小している。7月は前年同月比12.9%減となった。

スーパーは、4-6月期は、衣料品が減少したものの、飲食料品が増加したことにより前年を上回った。7月は前年同月比1.8%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	▲7.8	▲6.7	▲0.1	5.8	—
百貨店・スーパー(*2)	▲10.1	▲17.2	▲12.4	▲1.0	▲2.1
百貨店(*2)	▲43.1	▲61.9	▲55.1	▲15.2	▲12.9
スーパー(*2)	1.1	▲2.4	1.4	4.1	1.8
コンビニ(*2)	▲8.3	▲9.9	▲10.0	▲5.0	▲7.0
乗用車(*3)	▲31.9	▲29.8	▲47.2	▲19.6	▲10.0
(季節調整値) (*3)	▲16.6	▲8.8	▲23.3	33.6	17.3

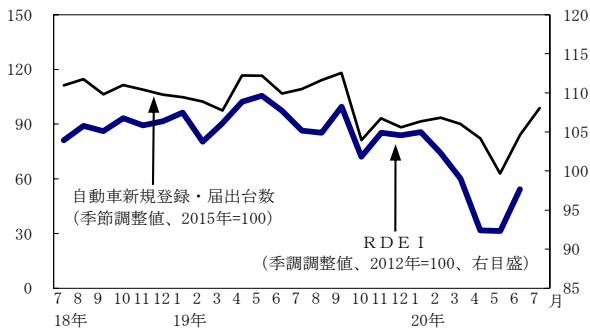
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2020年7月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比)(%)

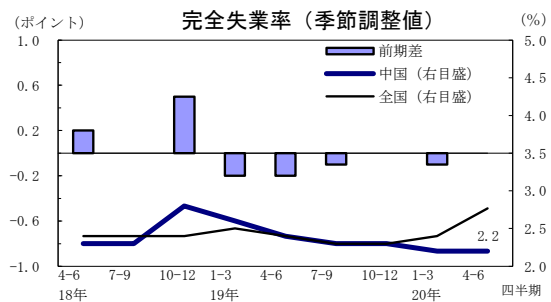
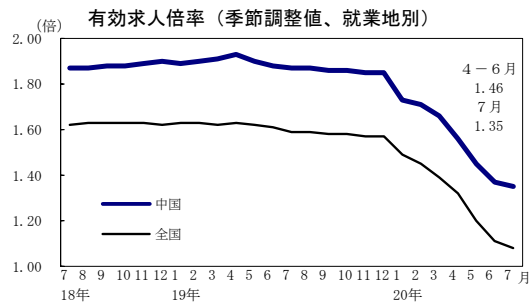
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

9. 中国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・日常生活が新型コロナウイルスの動向に左右されているので、景気も新型コロナウイルスの動向次第である(商店街)
			・3~6月に比べて売上が戻ってきている。実店舗よりもインターネットからの問合せ、売上が多い。高額商品や特殊なメンテナンスサービスの受注量が多く、非対面型で特徴のある商品やサービスのPRを引き続きインターネットを通じて行っていく必要を感じている(一般小売店[靴])
			・前月まではキャッシュレス・消費者還元事業があり、天候にも恵まれ、前年並みの売上があったが、今月は新型コロナウイルスの影響で苦戦している(家電量販店)
	企業 動向 関連		・新型コロナウイルスの影響で新たな設備更改が見送られるなど通信機器販売が伸び悩んでいる。リモートアクセス商材の引き合いはあるが、単価が低く相殺できていない(通信業)
		×	・新型コロナウイルスの感染者数が増加しており、引き続き予断を許さない状況である(電気機械器具製造業) ・新型コロナウイルスによる世界的な景気悪化の影響で、特に自動車部品を生産している取引先の受注量が前年と比べ25%減少している(化学工業)
雇用 関連		・新型コロナウイルスが引き続き大きく影響しており、求人数は伸びていない(民間職業紹介機関)	
	×	・引き続き休業している企業があり、求人数の減少も続いていることから、景気はやや悪くなっている(職業安定所) ・求人数は全体的に減少傾向である(その他雇用の動向を把握できる者)	
その他の特徴 コメント			・3か月前は新型コロナウイルスが全国へ広まるなかで求職者や求人者の動きが制限されていく傾向にあったが、その頃と比べると、求職者や求人者の動きが戻ってきている(人材派遣会社) ：少しずつではあるが、週末を中心に来園者が増加してきている(テーマパーク) ：Go To Travelキャンペーンでの反転攻勢に期待したが、キャンペーンと同時に新型コロナウイルスの感染者数も増加傾向になり、なかなか客が出掛けようというマインドになりにくいのか、新規の予約と同じくらいキャンセルが目立っている(高級レストラン)
先行き	家計 動向 関連		・お盆等で消費が伸びてくる時期ではあるが、新型コロナウイルスの影響で人の動きが更に抑えられ、催事やイベント等の中止、縮小が発生するため、前年ほどの売上が期待できない(スーパー)
			・近県でも新型コロナウイルスの感染拡大が進行しており、再度、緊急事態宣言を発令されることを懸念している。新型コロナウイルスが終息するまでは厳しい状況は変わらない(タクシー運転手)
	企業 動向 関連	×	・受注案件が増加しないため、工場は現状の定時割れの状況が続く(金属製品製造業) ・民間企業の受注の不透明感が続く(建設業) ・新型コロナウイルスの影響で、しばらくの間、人の動きが止まる。通販では僅かしか売れない業界なので、人が動かない限り好転しない(繊維工業)
			・飲食業やサービス業に加え、輸出産業や製造業も大きな打撃を受けており、新型コロナウイルスの今後が見通せない状況で、経済の停滞、更なる景気の減速も懸念される(新聞社[求人広告]) ・景気が悪くなる材料しかないため、今後、景気は悪くなる(学校[大学])
	その他の特徴 コメント		

(D I) 現状・先行き判断D I (中国)の推移(季節調整値)

